

スワレ通信

Support Office for Female Researchers



松岡 英子
女性研究者支援室長

ご理解とご協力に感謝します

男女共同参画はわが国だけではなく、海外においても重要課題のひとつと位置づけられており、国連やユネスコでも国際的な取組みを進めています。そのような状況にあって、高等教育機関である日本の大学の現状に目を向けると、男女間の格差はまだ大きく、女性研究者が非常に少ないのが現状です。とりわけ理系の分野ではその格差が目立っています。本学においては2011年に文科省の女性研究者研究活動支援事業のファンドを得て、同年9月に男女共同参画推進委員会を設置し、その下に女性研究者支援室を開設して、女性研究者がその能力を最大限発揮できるように環境整備を進めてきました。当初は「男女共同参画」を口にするのものはばかれる環境でしたが、ファンドを後ろ盾にして女性研究者支援を中核とした男女共同参画の推進に組織的・積極的に取組んで参りました。少しずつですが、女性が元気になる、応援してくれる男性も増えてきました。2年半が経過した現在では男女共同参画を今後とも推進することに9割以上の教職員が賛同していることが、昨年11月に実施したアンケートから明らかになり、大変嬉しく思います。

女性教員比率11.9%（2011年5月、全国86国立大学中62位）という状況を改善することを第1の目標に掲げ、2014年3月末13.7%を目指して、部局別女性教員増員目標値を設定しました。これは、極めて大きい数のアンバランスを是正する暫定措置と考えてください。目標を達成すべく農学、工学、全学教育機構では女性限定公募を行い、他部局でも女性教員の採用に努力いただきました。その結果、目標をクリアできる状況に到達しました。みなさまのご協力に感謝いたします。また、女性教員ゼロであった繊維学部にも女性教員を採用するという目標も達成することができました。現在、繊維学部には2名の女性教員がいます。このように女性教員の数は増えつつありますが、依然として男女教員の数の差は非常に大きく、ジェンダーギャップが解消されているわけではありません。クリティカル・マスをどの程度に考えるかですが、国際的には30%程度といわれています。これに少しでも近づくよう今後とも、より一層の継続的な努力が必要だと考えています。同じ才能と業績があっても、偏見の目を通せば等しいものとはなりません。能力が正當に評価される環境が重要であることは言うまでもありません。

Q. 本学において、今後も男女共同参画を推進することに賛成ですか。

93.7%が賛成



女性研究者支援室は本年2014年4月から、これまでの取組みを踏まえ「男女共同参画推進室」に名称を改め、第2ステップに入ることになりました。男女共同参画は信州大学の持続的な発展の可能性を確保するために必要不可欠であり、教職員が志を同じくして推進していく必要があります。これまで取組んできた女性研究者支援を継続し、さらに男女共同参画を目指して、性別を問わず教職員・学生を対象として多様性を尊重する環境や意識の醸成、ワーク・ライフ・バランスの実現などを目指していきます。皆様の更なるご理解、ご協力をお願い申し上げます。

研究補助者制度は平成26年度から利用資格が変更になりました。

研究補助者制度は、平成23年度から平成25年度まで文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」の一環として行われてきましたが、平成26年度からは本学で独自に継続、実施することになりました。そのため以下のとおり利用対象者について一部変更しました。

いままで (25年度まで)	これから (26年度から)
<ul style="list-style-type: none"> ・本人、もしくは配偶者が妊娠中の方 ・小学校6年生までの子どもを養育中の方 ・要介護3以上の認定を受けている親族(同居を原則とする)を介護している方 ・その他、上記に準ずる理由がある方(例えば、障害者の介護、別居で介護、ライフイベントにより研究時間の確保が非常に困難な場合など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠中の方 ・小学校3年生までの子どもを主に養育中の方 ・要介護の認定を受けている親族(同居を原則とする)を介護している方 ・その他、上記に準ずる理由がある方(例えば、主に家族の介護をしている、ライフイベントにより研究時間の確保が非常に困難な場合など)

その他研究補助者制度についてご不明な点など、詳しくは支援室にお問い合わせください。また詳細な情報・必要書類については、以下のURLから取得いただけます。

<http://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/>

平成26年度(4月~9月期) 研究補助者制度の利用者決定

本学の研究者がライフイベントと研究活動を両立できるよう、平成26年度も上記に従って研究補助者制度利用希望者を募集しました。厳正な審査のうえ、利用者を決定しました。

選考結果

利用者 12人
(女性 11人、男性 1人)



大学入試センター試験における、教職員のお子さんの一時保育を実施しました。

平成26年1月18日、19日の両日に行われた大学入試センター試験の際に、試験業務等に従事する教職員のお子さんをお預かりする一時保育を昨年度に引き続き実施しました。

松本キャンパスでは、教職員5名(子ども延べ11名)、長野(教育)キャンパスでは、教職員2名(子ども延べ6名)のお子さんをお預かりしました。普段とは違う環境での保育に最初は戸惑う子もいましたが、すぐに慣れ、楽しく過ごす子どもの姿が見られました。

大学入試センター試験における一時保育は、昨年実施した男女共同参画に関するアンケートでも継続を希望する声が多く、本年度は昨年度に引き続き、松本と長野(教育)キャンパスで実施しました。平成27年度以降のその他のキャンパスでの実施について、ご意見ご要望がありましたら、女性研究者支援室までお寄せください。



平成26年度から「男女共同参画推進室」に名称が変わり、活動が広がります。

平成23年度から平成25年度まで取組んできた女性研究者支援事業は継承し、男女共同参画基本方針に基づき、本学におけるすべての人が学びやすく働きやすい大学を目指します。

平成26年度以降は、性別を問わず教職員・学生を対象に男女共同参画の意識啓発、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現などに取組むことから「女性研究者支援室」を「男女共同参画推進室」に名称を改め、新たなスタートを切ることになりました。

男女共同参画に関する今後の取組み

- 1 男女共同参画の推進体制の確立
- 2 女性研究者の応募・採用拡大と育成の促進及び研究活動の支援
- 3 大学運営に関する女性参画の推進
- 4 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進
- 5 男女共同参画に関する教育・啓発活動
- 6 学外との連携協力

署名キャンペーンin教育学部

「知の森」から男女共同参画を発信する

2月6日(木)より、教育学部管理校舎リフレッシュコーナーにて、男女共同参画についての署名キャンペーンを行っています。男女問わず活躍できる社会のため、「信州大学男女共同参画宣言」をした山沢学長はじめ、これに賛同する教職員のみなさんに直接ポスター上に署名いただいています。2月18日現在、55名のみなさんが署名しています。



「活躍するママって、カッコイイ!」
「子育てするパパって、ステキ!」



男女共同参画啓発ポスターが完成しました。今回は若い教職員が注目するようにポップな明るいものになりました。

3月8日は国際女性デー

国際的な女性解放の記念日。1908年ニューヨークの女性労働者が参政権を求め集会を開いたのが始まりとされる。1975年国連にて定められる。(内閣府男女共同参画局 HPより)



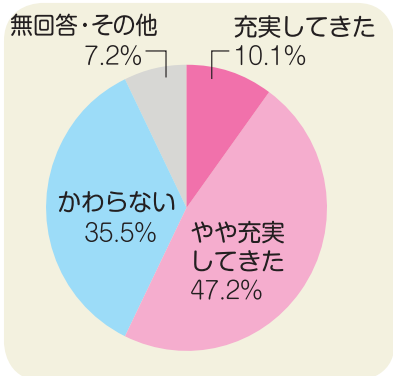
平成25年度 男女共同参画に関するアンケート調査結果

平成25年11月に本学の教職員(常勤・非常勤3,815人)を対象に男女共同参画に関するアンケートを実施しました。3年間の女性研究者支援活動を通し、意識の変化や今後の活動へつなげるための具体的な方向性が浮かび上がりました。結果は報告書およびスプレホームページにて公表します。

アンケート
PICK UP!

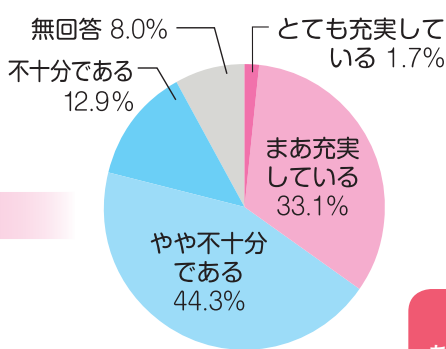
平成25年度調査

Q. 本学では、女性の教職員が活躍するための支援が充実してきたと思いますか。



平成22年度調査

Q. 信州大学では、女性の教職員が活躍するための支援が充実していると思いますか。



アンケートご協力
ありがとうございました。

信大の育メン研究者

谷塚光典准教授からの報告

(教育学部附属教育実践総合センター)

去る1月29日(水)に大阪市立大学女性研究者支援室企画の第2回研究者交流会「男性研究者の子育て術」に、講師として招かれました。「研究者夫婦のキャリアデザインと子育て～育休を取得した男性研究者からみて～」と題し、研究をしながらいかに育児にかかわっているのかについて講演したあと、参加者の皆さんと意見交換に参加しました。

当日は、大阪市大の育メン先生や、育児をしている大学院生達と、子どもにとっても親にとってもよりよい方法を、経験談を元に話し合いました。色々な立場の中で、新たな気づきも多かった会になりました。

当日の様子▼



ロールモデル集 第2巻

「輝け! 女性研究者たち」

3月発行!



お問い合わせ

信州大学 女性研究者支援室 (SuFRe)

松本分室 (総務部人事課内)
〒390-8621 松本市旭 3-1-1
TEL 0263-37-2167
FAX 0263-37-3314
内線 811-2127

長野分室 (教育学部内)
〒380-8544
長野市西長野 6-口
TEL/FAX 026-238-4048
内線 831-4048

開室時間
9:00~17:00(月~金)

E-mail: sufre@shinshu-u.ac.jp
<http://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/sufre/>



長野分室(教育学部内)案内図

